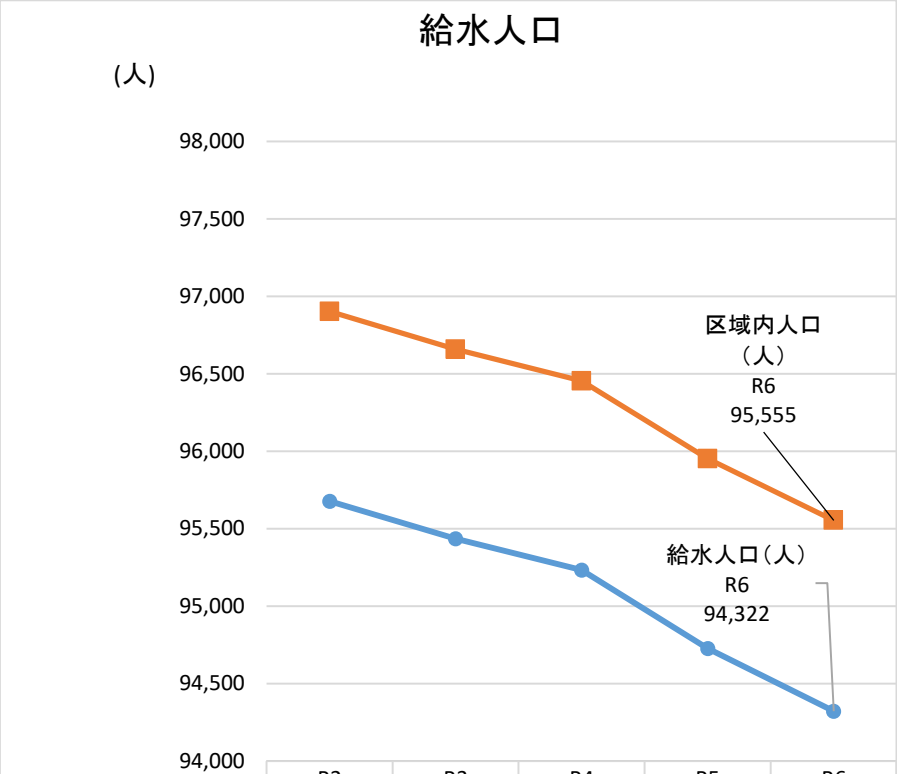
資料

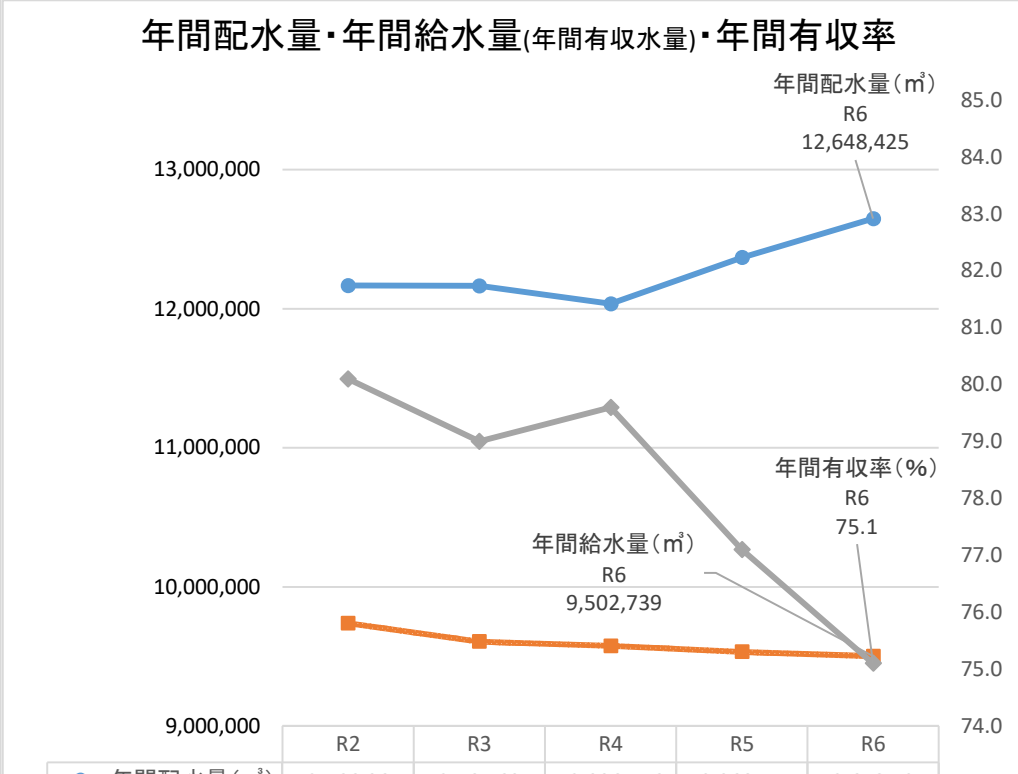
令和６年度　安曇野市上下水道事業　決算概要

Ⅰ　水道事業決算概要

１　業務量　（決算書　29ページ）



	R2	R3	R4	R5	R6
給水人口（人）	95,678	95,436	95,234	94,727	94,322
区域内人口（人）	96,903	96,659	96,455	95,953	95,555



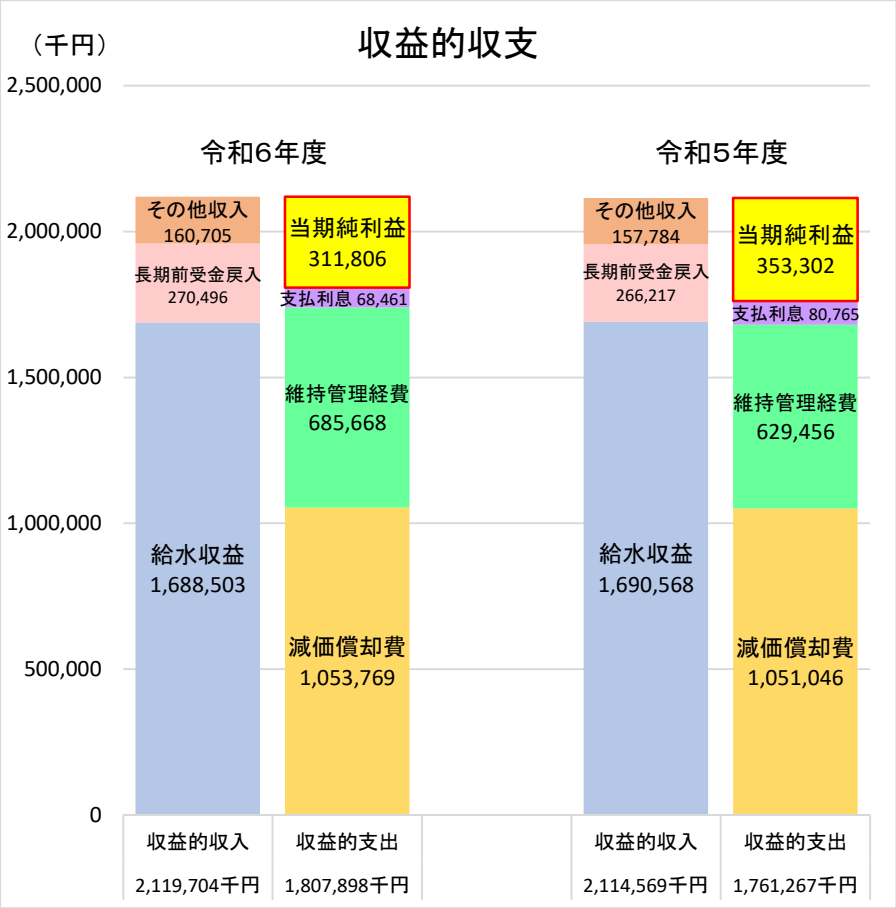
	R2	R3	R4	R5	R6
年間配水量（㎥）	12,166,065	12,165,637	12,036,576	12,368,514	12,648,425
年間給水量（㎥）	9,739,522	9,606,923	9,575,719	9,532,976	9,502,739
年間有収率（%）	80.1	79.0	79.6	77.1	75.1

２　収益的収支（損益計算書）　（決算書　９～10ページ、29ページ、32～35ページ）

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

収益的収支		令和６年度	令和５年度	増減	増減率
営業収益		1,786,910	1,785,681	1,229	0.07%
	うち給水収益	1,688,503	1,690,568	△ 2,065	△ 0.12%
営業外収益		332,794	328,888	3,906	1.19%
	うち長期前受金戻入	270,496	266,217	4,279	1.61%
収益　計　①		2,119,704	2,114,569	5,135	0.24%
営業費用		1,737,147	1,677,735	59,412	3.54%
	うち減価償却費	1,053,769	1,051,046	2,723	0.26%
	うち資産減耗費	33,127	6,474	26,653	411.69%
営業外費用		70,751	83,532	△ 12,781	△ 15.30%
費用　計　②		1,807,898	1,761,267	46,631	2.65%
経常損益　①-②		311,806	353,302	△ 41,496	△ 11.75%
特別損益		0	0	0	－
純 損 益		311,806	353,302	△ 41,496	△ 11.75%



損益では、総収益が21億1,970万4千円で、総費用は18億789万8千円となり、純損益は3億1,180万6千円の黒字で、前年度に比べ4,149万6千円の減少となりました。

収益は、前年度と比較して収益全体では513万5千円増加となりました。長期前受金戻入の増加が主な原因と考えられます。

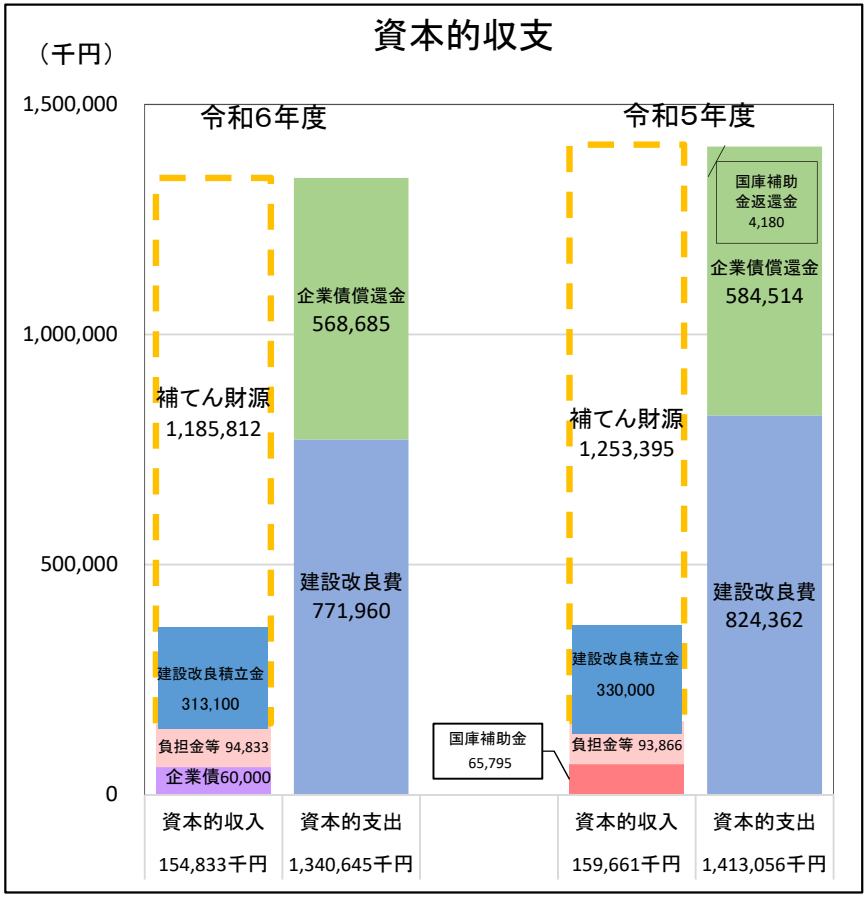
費用は、国の電気料金に対する支援縮小や再エネ賦課金の上昇により動力費が増加したことを主な原因として、4,663万1千円増加しました。

３　資本的収支　（決算書　７～８ページ）

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

（千円）※消費税込み

資本的収支		令和６年度	令和５年度	増減	増減率
資本的収入（a）		154,833	159,661	△ 4,828	△ 3.02%
	うち企業債	60,000	0	60,000	－
資本的支出（b）		1,340,645	1,413,056	△ 72,411	△ 5.12%
	うち企業債償還金	568,685	584,514	△ 15,829	△ 2.71%
資本的収支不足額（a）－（b）		△ 1,185,812	△ 1,253,395	67,583	△ 5.39%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	66,065	117,621		
	損益勘定留保資金（※1）	806,647	805,774		
	建設改良積立金	313,100	330,000		



資本的収入は1億5,483万3千円で、前年度より482万8千円減少しました。
これは、移転工事等の負担金の減少によるものです。
資本的支出は13億4,064万5千円で、上原水源地監視装置更新工事等の繰越により前年度より7,241万1千円減少しました。収支差引で不足する11億8,581万2千円は、損益勘定留保資金8億664万7千円、建設改良積立金3億1,310万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金

４　貸借対照表　（決算書　13～14ページ）

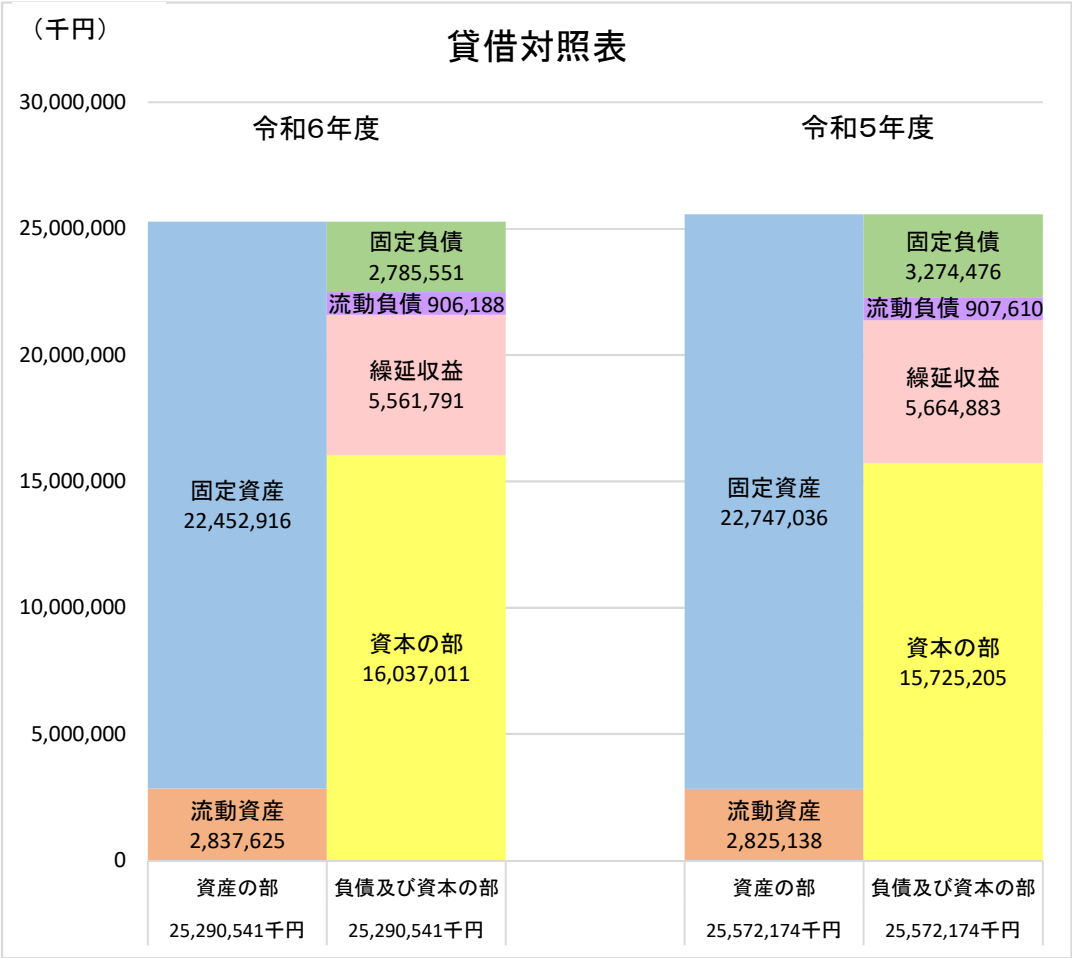
財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

（千円）

		令和６年度	令和５年度	増減
資産		25,290,541	25,572,174	△ 281,633
	固定資産	22,452,916	22,747,036	△ 294,120
	流動資産	2,837,625	2,825,138	12,487
	うち現金	2,601,561	2,693,554	△ 91,993
負債		9,253,530	9,846,969	△ 593,439
	固定負債	2,785,551	3,274,476	△ 488,925
	うち企業債	2,785,551	3,274,476	△ 488,925
	流動負債	906,188	907,610	△ 1,422
	うち企業債	548,924	568,685	△ 19,761
	繰延収益	5,561,791	5,664,883	△ 103,092
資本		16,037,011	15,725,205	311,806
	資本金	13,627,496	13,297,496	330,000
	剰余金	2,409,515	2,427,709	△ 18,194
	資本剰余金	231,165	231,165	0
	利益剰余金	2,178,350	2,196,544	△ 18,194
負債＋資本　計		25,290,541	25,572,174	△ 281,633

令和６年度は企業債を6,000万円借入れましたが、企業債償還等により負債は5億9,343万9千円減少しました。

また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金の組入れにより資本金は3億3,000万円増加しました。



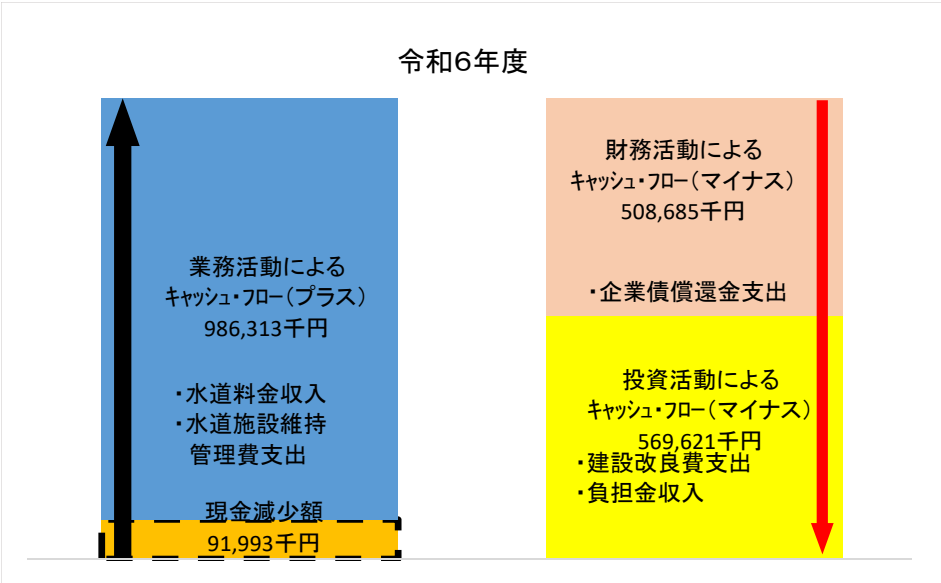
５　キャッシュ・フロー計算書　（決算書　31ページ）

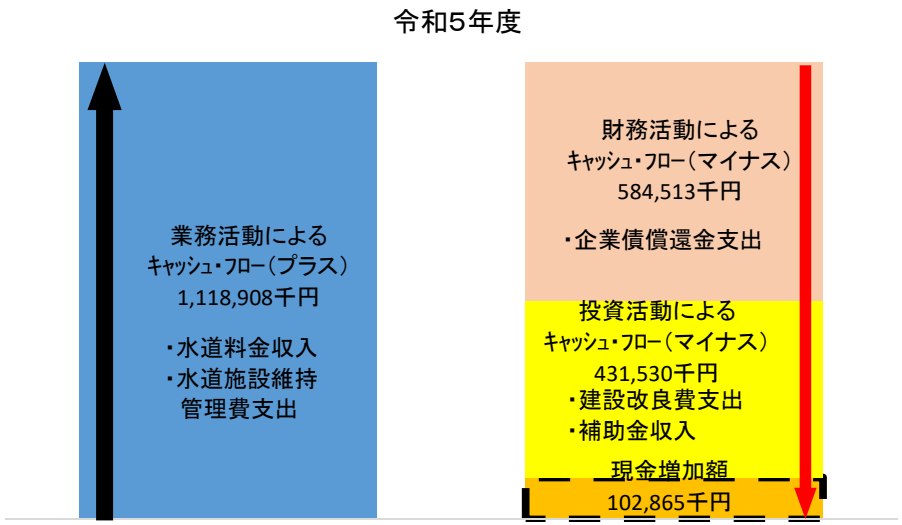
１年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の３種類に区分けして、現金の流れを表します。
業務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。ﾌﾟﾗｽになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。
投資活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はﾏｲﾅｽとなります。
財務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はﾏｲﾅｽ、借入れた場合はﾌﾟﾗｽとなります。

（千円）

	令和６年度	令和５年度	増減
業務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	986, 313	1, 118, 908	△ 132, 595
投資活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 569, 621	△ 431, 530	△ 138, 091
財務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 508, 685	△ 584, 513	75, 828
現金増減額	△ 91, 993	102, 865	△ 194, 858
現金期首残高	2, 693, 554	2, 590, 689	102, 865
現金期末残高	2, 601, 561	2, 693, 554	△ 91, 993

業務活動による現金は、9億8, 631万3千円でプラス領域のため事業活動は順調と言えます。投資活動による現金は、5億6, 962万1千円のマイナスで配水管布設替工事等の建設改良費を主に支出しました。財務活動による現金は、5億868万5千円のマイナスで企業債償還金を支出しました。現金の期末残高は26億156万1千円となりました。



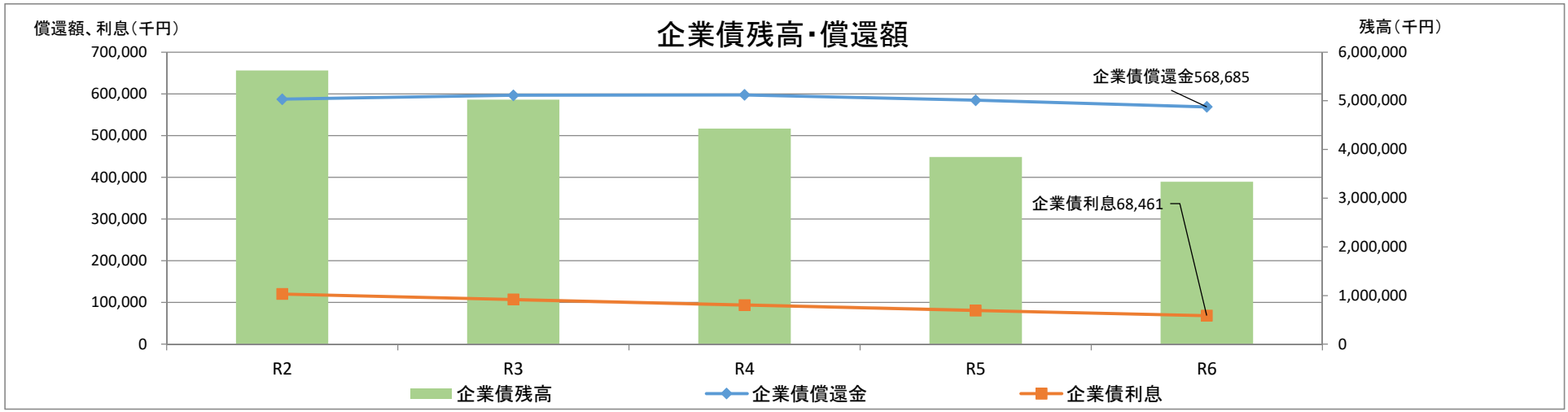


６　企業債　（決算書　10ページ、30ページ、35ページ、37～38ページ）

（千円）

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
年度末残高	5,621,639	5,025,227	4,427,674	3,843,160	3,334,475
借入額	83,000	83,000	0	0	60,000

6,000千万円の借入れと5億6,868万4千円の元金償還により、令和６年度末の企業債残高は33億3,447万5千円となりました。
また、企業債利息として、6,846万1千円を支払いました。



７　利益剰余金　（決算書　11～12ページ）

（千円）

前年度からの繰越利益剰余金　A		9
当年度変動額　B		624,906
	当年度純利益	311,806
	積立金の取り崩し	313,100
当年度未処分利益剰余金　(C=A+B)		624,915

当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額9千円と当年度純利益3億1,180万6千円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した3億1,310万円の合計6億2,491万4千円となりました。

利益剰余金処分（案）　（千円）

建設改良積立金の積立	△ 311,810
資本金への組入れ	△ 313,100
処分額　計　D	△ 624,910

（千円）

翌年度への繰越利益剰余金(E=C-D)	5

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。
当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

令和6年度に上水道事業で実施した主な取組みについて

①主要管路布設事業

≪配水管布設工事≫
災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、令和6年度は拠点配水池への導水管の耐震化を進めることができました。

管布設状況

●主要管路整備事業　L=413m　C=62,238千円（堀金）

②既存管路更新事業

≪送配水管布設替工事≫
老朽化した送・配水管等を地震に強い管種に更新し、漏水の減少及び耐震化を進めています。

管布設状況

●既存管路更新事業　L=2,367m　C=369,488千円

③濁度計設置事業

≪濁度計設置工事≫
災害時、井戸内に発生した濁水が配水池内に混入すると安定的な配水が困難となるおそれがあるため、濁度計を設置し、常時監視することにより水質事故を未然に防止することができます。

施工状況

機器調整

濁度計設置及び配管

●濁度計設置工事（上原第2水源地） C=34,650千円

④漏水調査業務

≪漏水調査≫
配水本管や給水管の漏水調査を、多点相関型漏水探知機（データロガ）や音聴調査により実施しました。発見した漏水箇所については早期に修理を行い、漏水の多い路線については、優先的に管路の布設替を実施していきます。

漏水探知機

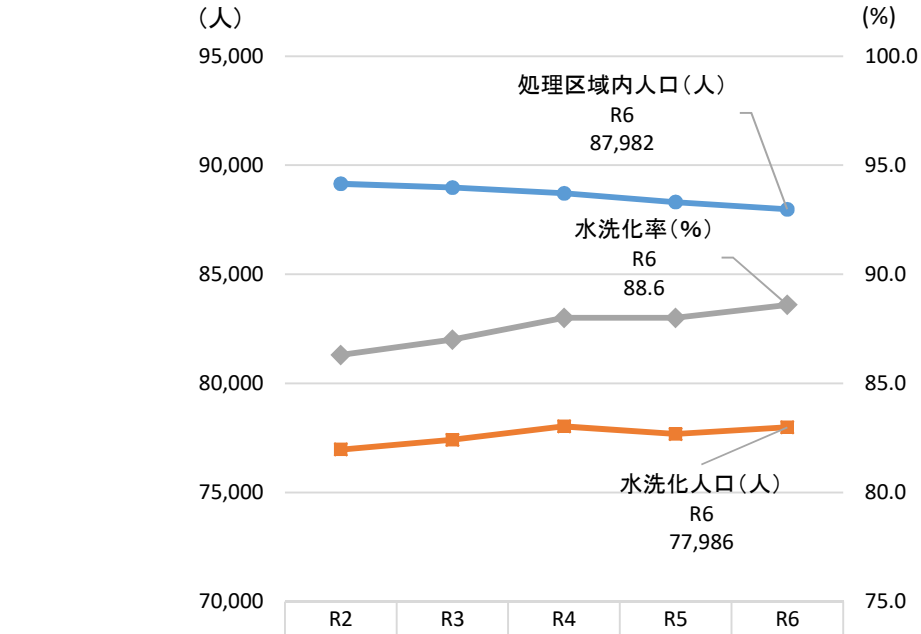
音聴調査

漏水箇所

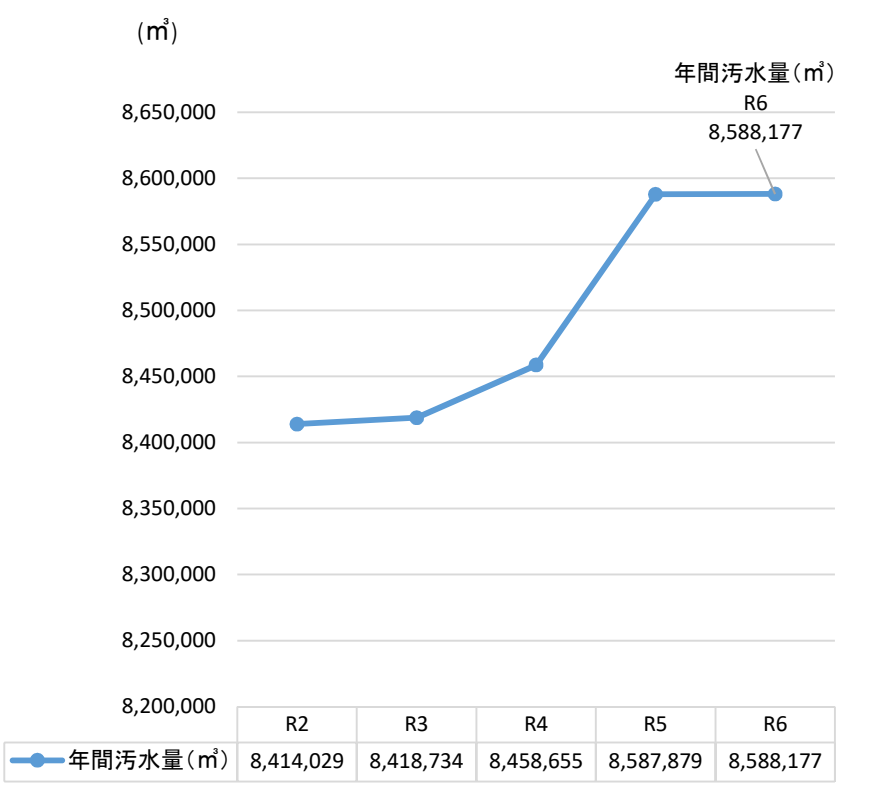
●漏水調査業務委託　上原配水系一部・岩原高区配水系　C=6,600千円

Ⅱ　下水道事業決算概要

1　業務量　（決算書　55ページ）



	R2	R3	R4	R5	R6
処理区域内人口（人）	89,150	88,974	88,707	88,309	87,982
水洗化人口（人）	76,969	77,414	78,028	77,677	77,986
水洗化率（%）	86.3	87.0	88.0	88.0	88.6



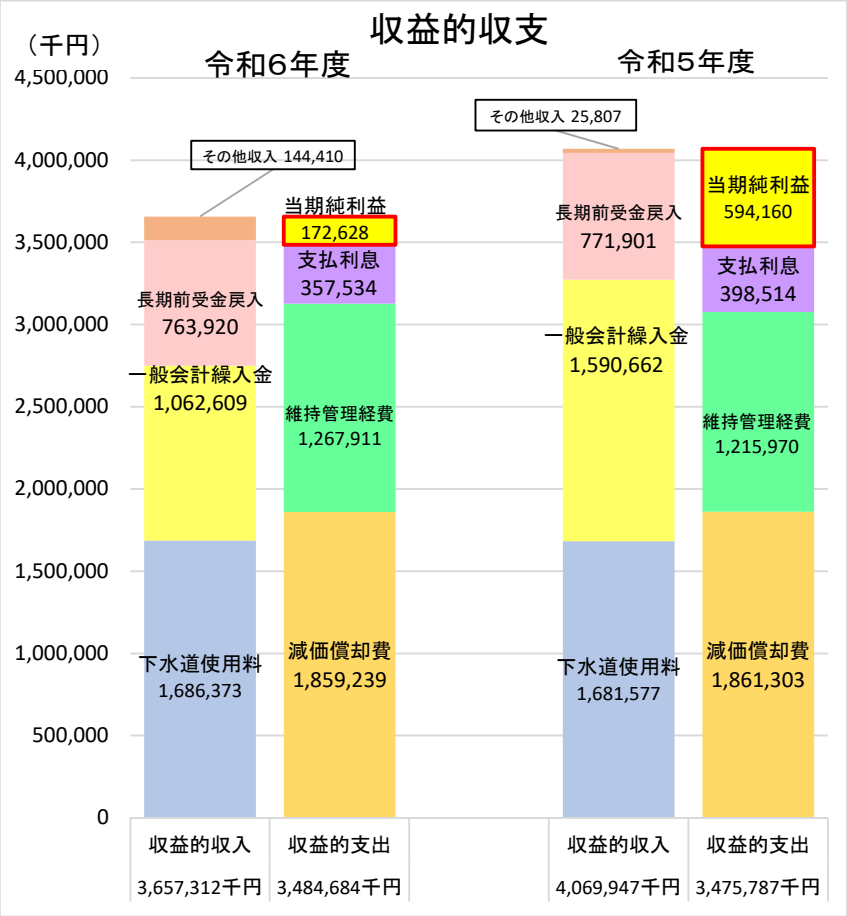
	R2	R3	R4	R5	R6
年間汚水量（㎥）	8,414,029	8,418,734	8,458,655	8,587,879	8,588,177

２　収益的収支（損益計算書）　（決算書　43～44ページ、56ページ、59～62ページ）

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。
下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

収益的収支		令和６年度	令和５年度	増減	増減率
営業収益		1,730,419	1,706,292	24,127	1.41%
	うち下水道使用料	1,686,373	1,681,577	4,796	0.29%
営業外収益		1,926,893	2,363,655	△ 436,762	△ 18.48%
	うち一般会計繰入金	1,062,609	1,590,662	△ 528,053	△ 33.20%
収益　計　①		3,657,312	4,069,947	△ 412,635	△ 10.14%
営業費用		3,125,004	3,076,913	48,091	1.56%
	うち減価償却費	1,859,239	1,861,303	△ 2,064	△ 0.11%
営業外費用		359,680	398,874	△ 39,194	△ 9.83%
費用　計　②		3,484,684	3,475,787	8,897	0.26%
経常損益　①-②		172,628	594,160	△ 421,532	△ 70.95%
特別損益		0	0	0	-
純 損 益		172,628	594,160	△ 421,532	△ 70.95%



損益では、総収益が36億5,731万2千円で、総費用は34億8,468万4千円となり、純損益は1億7,262万8千円の黒字で、前年度に比べ4億2,153万2千円減少となりました。
収益は、一般会計からの繰入金の見直しなどの影響により4億1,263万5千円減少しました。
費用は、企業債の利息は4,098万円減少しましたが、施設の長寿命化対策事業に係る経費の増加などにより889万7千円増加しました。

３　資本的収支　（決算書　41～42ページ）

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

（千円）※消費税込み

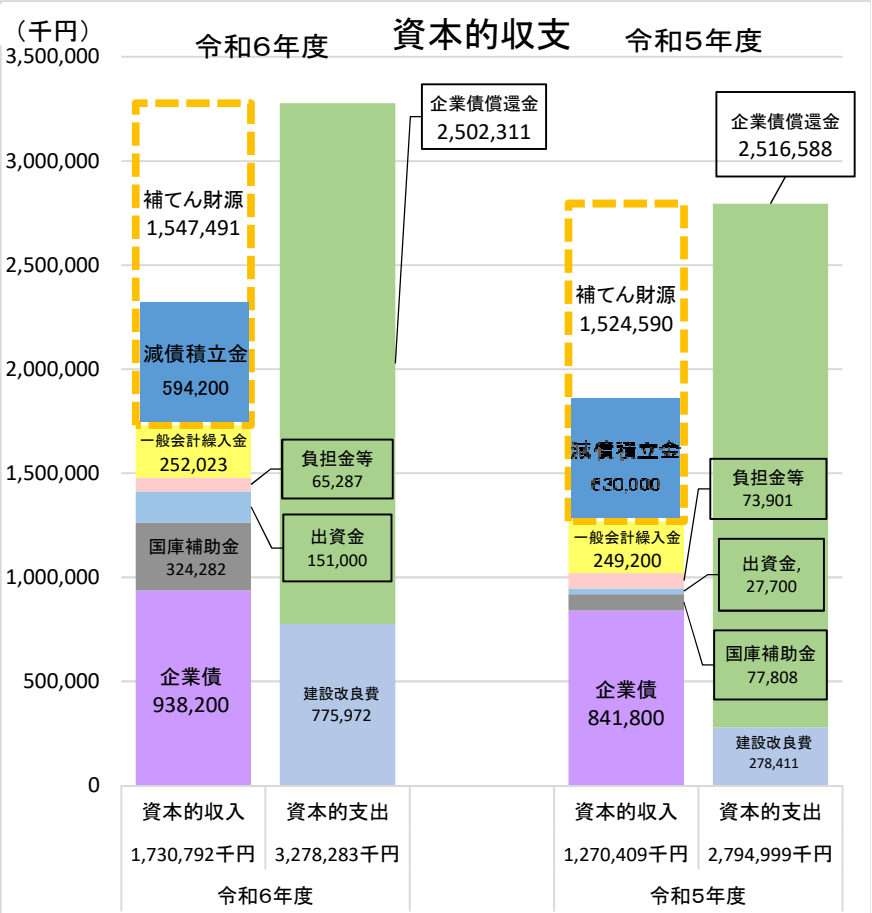
資本的収支		令和６年度	令和５年度	増減	増減率
資本的収入（a）		1,730,792	1,270,409	460,383	36.24%
	うち資本費平準化債	655,000	684,000	△ 29,000	△ 4.24%
資本的支出（b）		3,278,283	2,794,999	483,284	17.29%
	うち企業債償還金	2,502,311	2,516,588	△ 14,277	-0.57%
資本的収支不足額（a）－（b）		△ 1,547,491	△ 1,524,590	△ 22,901	1.50%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	19,358	59,781		
	損益勘定留保資金（※1）	933,933	834,809		
	減債積立金	594,200	630,000		

資本的収入は17億3,079万2千円で、国庫補助金及び一般会計からの出資金などの増加により、4億6,038万3千円増加しました。

資本的支出は32億7,828万3千円で、下水道施設統廃合事業など建設改良費の増加により、4億8,328万4千円増加しました。

収支差引で不足する15億4,749万1千円は、損益勘定留保資金9億3,393万3千円と減債積立金5億9,420万円の取り崩しなどで補てんしました。

（※1）損益勘定留保資金
施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



（参考）一般会計繰入金収入額の比較　（決算書　43ページ、50ページ、57ページ、59ページ）

（一般会計負担金）　（千円）

		令和６年度	令和５年度	増減
一般会計繰入金合計		1,316,864	1,841,797	△ 524,933
	収益的収入	1,064,841	1,592,597	△ 527,756
	資本的収入	252,023	249,200	2,823

※収益的収入グラフとの差額は生保減免分繰入金（営業収益）分です。
（令和６年度　2,232千円、令和５年度　1,935千円）

（千円）

基準内で繰入るもの	1,313,856
基準外で繰入るもの	776
生保減免分繰入金	2,232
上記合計	1,316,864

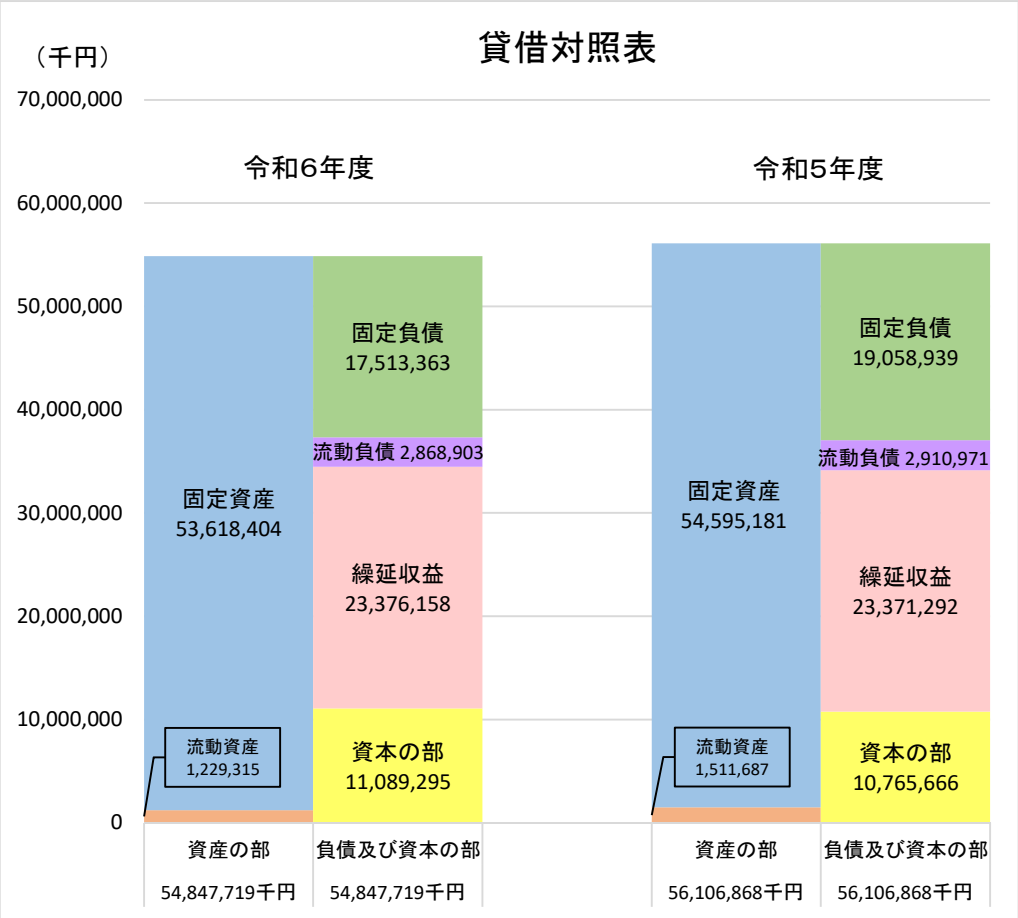
４　貸借対照表　（決算書　47～48ページ）

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

（千円）

		令和６年度	令和５年度	増減
資産		54,847,719	56,106,868	△ 1,259,149
	固定資産	53,618,404	54,595,181	△ 976,777
	流動資産	1,229,315	1,511,687	△ 282,372
	うち現金	652,282	1,345,892	△ 693,610
負債		43,758,424	45,341,202	△ 1,582,778
	固定負債	17,513,363	19,058,939	△ 1,545,576
	うち企業債	17,513,363	19,058,939	△ 1,545,576
	流動負債	2,868,903	2,910,971	△ 42,068
	うち企業債	2,483,776	2,502,311	△ 18,535
	繰延収益	23,376,158	23,371,292	4,866
資本		11,089,295	10,765,666	323,629
	資本金	9,924,973	9,143,973	781,000
	剰余金	1,164,322	1,621,693	△ 457,371
	資本剰余金	397,447	397,447	0
	利益剰余金	766,875	1,224,246	△ 457,371
負債＋資本　計		54,847,719	56,106,868	△ 1,259,149

企業債残高が199億9,713万9千円で、負債合計の約45％を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金及び出資金の組入れ等により資本金は7億8,100万円増加しました。



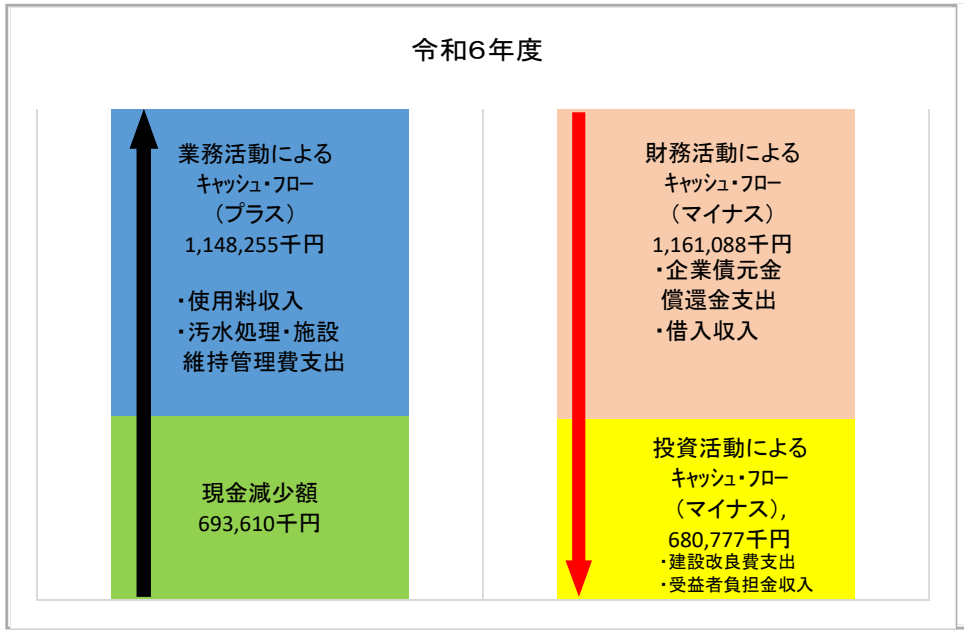
５　キャッシュ・フロー計算書　（決算書　58ページ）

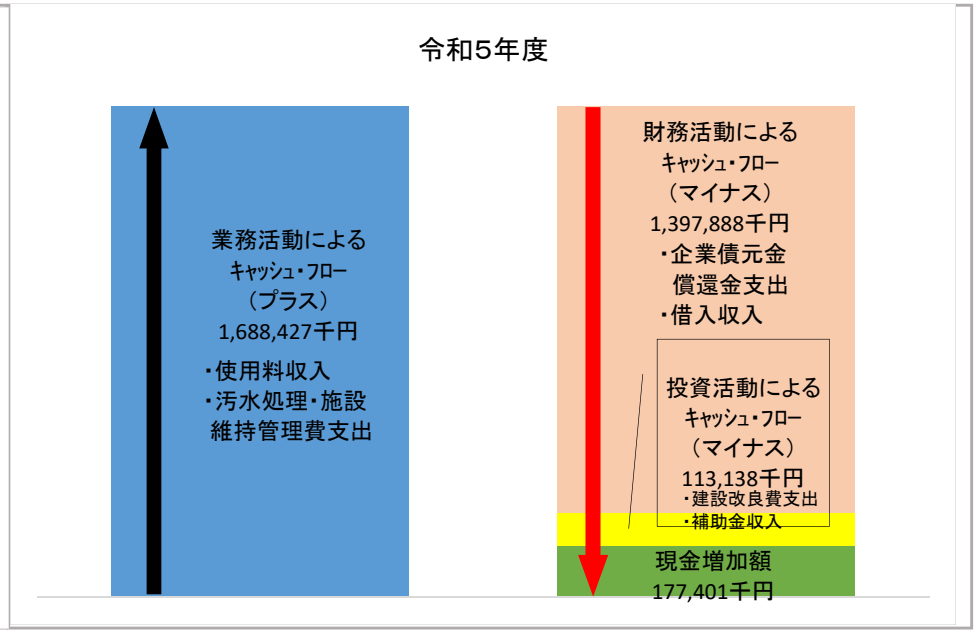
１年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の３種類に区分けして、現金の流れを表します。
業務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。ﾌﾟﾗｽになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。
投資活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はﾏｲﾅｽとなります。
財務活動によるｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はﾏｲﾅｽ、借入れた場合はﾌﾟﾗｽとなります。

（千円）

	令和６年度	令和５年度	増減
業務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	1,148,255	1,688,427	△ 540,172
投資活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 680,777	△ 113,138	△ 567,639
財務活動によるｷｬｯｼｭ・ﾌﾛｰ	△ 1,161,088	△ 1,397,888	236,800
現金増減額	△ 693,610	177,401	△ 871,011
現金期首残高	1,345,892	1,168,491	177,401
現金期末残高	652,282	1,345,892	△ 693,610

業務活動による現金は、11億4,825万5千円で一般会計からの繰入金の見直しに伴い純利益が減ったため減少しましたが順調な経営となっています。
投資活動による現金は、建設改良費の増加により6億8,077万7千円のマイナスとなりました。財務活動による現金は、企業債の償還などにより11億6,108万8千円のマイナスとなりました。現金の期末残高は、6億5,228万2千円で、6億9,361万円の減となりました。





６　企業債　（決算書　44ページ、57ページ、62ページ、64～71ページ）

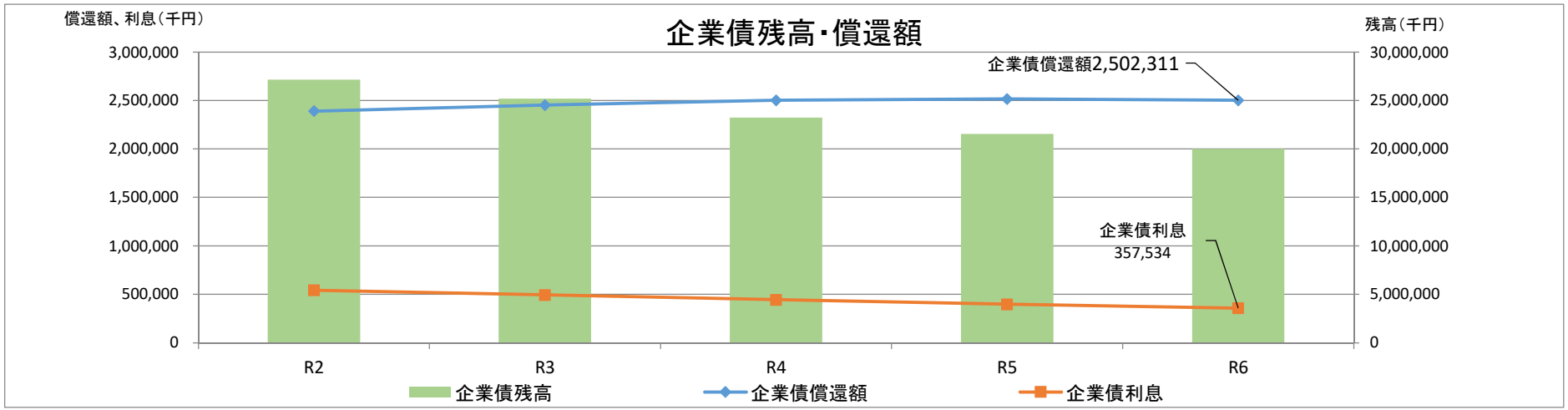
（千円）

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
年度末残高	27,150,353	25,195,705	23,220,038	21,561,250	19,997,139
借入額	480,600	498,800	525,800	857,800	938,200
うち資本費平準化債	362,100	400,000	491,000	684,000	655,000

令和６年度は、下水道事業債2億8,320万円と資本費平準化債6億5,500万円を借り入れました。

一方で、25億231万1千円の元金償還により、年度末の企業債残高は199億9,713万9千円となりました。

また、企業債利息として3億5,753万4千円を支払いました。



７　利益剰余金　（決算書　45～46ページ）

（千円）

前年度からの繰越利益剰余金　A		46
当年度変動額　B		766,828
	当年度純利益	172,628
	積立金の取り崩し	594,200
当年度未処分利益剰余金(C=A+B)		766,874

当年度未処分利益剰余金は、前年度繰越額4万6千円と当年度純利益1億7,262万8千円、資本的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した5億9,420万円の合計7億6,687万4千円となりました。

利益剰余金処分（案）　（千円）

減債積立金の積立	△ 172,650
資本金への組入れ	△ 594,200
処分額　計　D	△ 766,850

（千円）

翌年度への繰越利益剰余金(E=C-D)	24

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、企業債償還の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

令和6年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

豊かな自然環境を守る（下水道の効率的な整備）

≪　汚水処理の広域化・共同化の推進　≫

下水道サービスを継続的かつ安定的に提供するため、「汚水処理区域の広域化」、「汚水処理施設の共同化」を推進し、効率的かつ効果的な事業運営に向けて取り組んでいます。

令和6年度は以下の工事等を行いました。

●工事

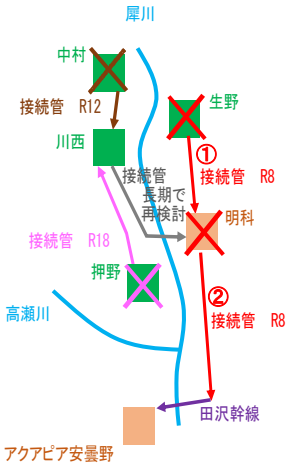
①接続管　L=702m、マンホールポンプ場　1機場

②接続管　L=320m、マンホールポンプ場　2機場

道路占用路面復旧　L=761.1m

●委託業務　　①、②工事の施工監理業務

●補償費　　接続管工事に伴う上水道補償



●工事請負費　C＝339，933千円　　●補償費　C＝24，395千円

●委託料　C＝11，103千円

健全で持続可能な事業運営（広聴・広報手段の拡充）

≪　マンホールカード　≫

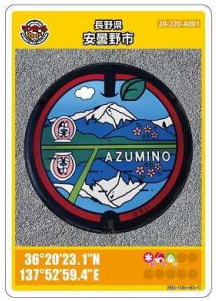
マンホールカードは、下水道への関心を高めてもらうことを目的に作られたコレクションカードです。

このカードは、全国各地のマンホールを巡りながら、楽しく、また、下水道の大切さや地域の魅力を知ってもらうために作られました。

≪　『みずかがみ（水鏡）』≫

このマンホール蓋は、「澄んだ水」、「広がる田園風景」、「雄大な常念岳」を題材としたデザインです。

そんな自然と文化が「ギュッ」と詰まったカードを、平日は下水道課窓口、休祝日は庁舎管理室にて無料配布しています。



●印刷製本費　C=99千円

安全で安心な暮らしの実現（計画的な維持管理）

≪　下水道施設維持管理　≫

処理場5施設及びマンホールポンプ場162箇所、管きょ856kmの適切な運転管理と施設の維持に取り組み水環境の保全に努めました。

管路自走式カメラ調査
L=1,521m実施

管口カメラ調査　　巡視点検
293箇所実施　　L=62,156m実施

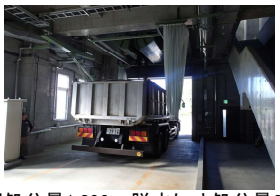
地震（震度6弱）発生を想定した伝達及び被災シミュレーション訓練状況　**実施日：令和7年3月13日**

計器類確認

放流水確認

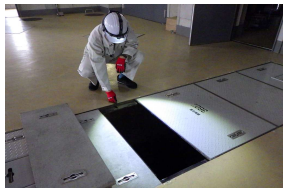
伝達訓練

脱水ケーキ搬出状況



汚泥処分量1,399t　脱水ケーキ処分量300t

施設維持管理作業状況



●維持管理費　C＝182，822千円

委託料：154,946千円　　汚泥処分費：15,465千円　　修繕費：12,411千円